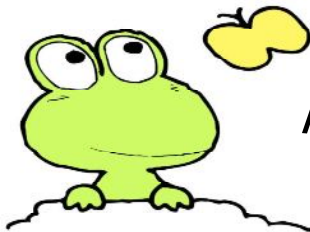


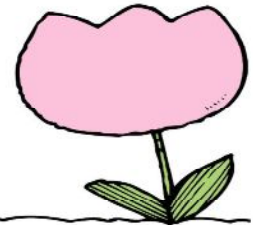
# Welcome to the サイエンス・ワールド!!

2013, 3, 4(月)  
第68号

那覇市立教育研究所  
理科通信



## 「啓蟄」 - 虫たちが目覚め始める春 -



3月6日（年によっては5日）は、啓蟄（けいちつ）といって、二十四節気（にじゅうしせつき）のひとつです。

「啓」には「開く」という意味があり、「蟄」には、「冬ごもりのために虫が土の下に隠れる」という意味があります。なので、「啓蟄」は、「土の中で冬ごもりをしていた虫たちが暖かさを感じて、土の中からはい出してくる」という意味になります。

### ＜月の異名と二十四節気＞

さて、私達が普段使っている暦は、太陽暦（陽暦）といい、地球が太陽のまわりをひとまわりする時間を約365日として定めています。

これに対して、太陰暦（陰暦）は、月の満ち欠けをもとにしていて、沖縄では今でも、旧暦としてさまざまな行事を行ったりしています。また、文学や古典（短歌や俳句など）なども、陰暦で季節を表しています。（立夏は4月、立秋は7月などと表現しています）

ところで、草野心平の詩「春のうた」には、冬眠から目覚めるカエルの様子がうたわれています。詩の中に、「ほっ いぬのふぐりがさいている」との表現がありますが、イヌノフグリなら朝8～10時頃、オオイヌノフグリなら朝8～昼3時頃の、晴れた日のことであろうと予想されます。なぜなら、これ以外の条件では、花を閉じてしまうからです。

冬			秋			夏			春			季													
十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	月													
師走 (しわす)	霜月 (しもつき)	神無月 (かんなづき)	長月 (ながつき)	葉月 (はつき)	文月 (ふみづき)	水無月 (みなづき)	皐月 (さつき)	卯月 (うづき)	弥生 (やよい)	如月 (きさらぎ)	睦月 (むつき)	異名													
大寒 (だいかん)	小寒 (しょうかん)	冬至 (とうじ)	大雪 (たいせつ)	小雪 (しょうせつ)	立冬 (りつとう)	霜降 (そうこう)	寒露 (かんろ)	秋分 (しゅうぶん)	白露 (はくろ)	処暑 (しよしょ)	立秋 (りつしゅう)	大暑 (たいしよ)	小暑 (しょうしよ)	夏至 (げし)	芒種 (ぼうしゅ)	小満 (しょうまん)	立夏 (りつか)	穀雨 (こくう)	清明 (せいめい)	春分 (しゅんぶん)	啓蟄 (けいちつ)	雨水 (うすい)	立春 (りつしゅん)	二十四節気	
一月二十日	一月五日	十二月二十二日	十二月七日	十一月二十一日	十一月七日	十月二十三日	十月八日	九月二十三日	九月七日	八月二十三日	八月七日	七月二十三日	七月七日	六月二十一日	六月五日	五月二十一日	五月五日	四月二十日	四月五日	三月二十日	三月六日	二月十八日	二月四日	二月四日	太陽暦相当日



オオイヌノフグリ



(文責：玉村かおり)